

◇テーマ別意見交換「人口減少・高齢社会における方策」

<人口減少方策の方向性>

減少やむなし	2件	生活の利便性の向上はやればやっただけの効果が出る。利便性の向上は住みやすいまちにつながり、住みたいまちとして、逆に人口減少の幅を抑えることになると思う。
人口維持すべき	1件	市民の満足度向上のためには、増加よりも現状規模のコンパクトな人口を保つほうが注力できると考える。日本全体が少子高齢化の一途をたどる中で、人口を維持し、活力あるまちにしていくためには、生産年齢人口増加が不可欠。そうすると、人口維持を選択したとしても、「人口を増やす方策」並みの戦略やテコ入れが必要と考える。
人口増を目指す	5件	館山には都心へのアクセスが良いという利点があり、住みたい田舎として上位にランクインしているので、そこを強みとして積極的に人口増加のための方策を優先すべき。 人口減少をくい止めなければ、生き残っていくことは難しい。 人口減少は否めないと思うが、将来、人口減少により懸念される問題(社会保障や経済の低迷)等を避けるために、人口増加の方策を考えるべき(特に若い世代)。 若い世代(青年・子育て世代)が、現在、将来に安定と希望が持てるようにする。
その他	2件	人口減少はやむを得ないが、将来維持すべき人口目標を立てた上で、その達成を目指して、市民の生活の利便性や幸福度の向上に向けた方策を優先すべき。 一つに絞らないほうがいい。総合的にやるほうが良いのでは。

<人口維持・増加策>

全 体	<p>生活の利便性の向上はやればやっただけの成果が出る。そして、利便性の向上は住みやすいまちにつながり、住みたいまちとして、逆に人口減少の幅を抑えることになると思う。</p> <p>子育て支援・教育環境の充実、若い層を増やすのに不可欠。</p> <p>市民が安心して快適に暮らせるまちとして、生活基盤、教育環境、福祉、医療の充実が不可欠。</p>
安 全	<p>治安・防災対策の充実</p> <p>地域住民がつくる地域の安全</p>
地 域	<p>地域住民同士の絆の強化</p> <p>地域コミュニティの強化・推進</p>
医 療 ・ 福 祉	<p>福祉の充実</p> <p>医療体制の充実</p>
子 育 て	<p>子どもを産み育てていきたいと思えるまちづくりが必要。</p> <p>安心して働ける環境</p> <p>仕事と育児の両立可能な職場環境支援（企業向け講習事業・優良企業認定で企業のイメージアップ）</p> <p>子育て支援（特に、子育てと仕事の両立ができる環境づくり）</p> <p>子育て支援（保育園・こども園・児童クラブ・放課後子ども教室の充実）</p> <p>子育て家庭の相談しやすさとコミュニティ支援</p>
イ ン フ ラ	<p>交通網の充実</p> <p>生活基盤の充実</p> <p>運動、スポーツ施設の充実</p>
若 者	<p>娯楽施設の充実</p> <p>若者たちが集う、健全なアミューズメントの場、施設を積極的に作っていくべき。</p> <p>若者の交流拠点整備（スポーツ、音楽・・・）</p>
高 齢 者	<p>高齢者の活用（昔の家族の中でのお年寄りの役割を地域で発揮）</p> <p>高齢になっても安心して暮らせるまちづくり（特に認知症対策に重点を置いてほしい。）</p> <p>高齢化（者）対策（医療・介護・見守りのほか、元気なお年寄りの活躍する場づくりなども含む）</p>
教 育	<p>教育の充実、教育環境の充実</p> <p>地の利を生かし、「都会よりも田舎で子どもを育てたい」という家族にアピールする特色ある学校教育を展開してはどうか。</p> <p>小中学生が地域の魅力を体験。ライフプラン教育。</p> <p>館山の魅力を知るための小中高生向け教育プログラム開発（将来的なUターン促進の種まき）</p>
移 住 ・ 定 住	<p>Uターン促進</p> <p>移住推進にはNPO「おせっ会」の実績があるので、力を入れるべき。</p> <p>移住推進（移住者が館山の魅力発信し、都市の若者が館山の産業創出・従事者に）</p> <p>都市交流（若者向けに、海・イベント・食・体験を首都圏に発信）</p> <p>大学・カレッジの誘致</p> <p>大学の館山キャンパス誘致</p>
雇 用 の 場 の 創 出	<p>雇用の充実</p> <p>移住を促進するにしろ、現在の人口を維持するにしろ、要は「雇用の創出」と思われる。</p> <p>起業支援</p> <p>企業誘致、新たな産業・雇用の創出</p> <p>企業のサテライトオフィス誘致</p> <p>農業および漁業の6次産業化</p> <p>これからは、人口減により、介護などのサービス産業の人手が不足するので、雇用のミスマッチ解消が重要。</p> <p>1次産業（特に農業）の活性化による働く場づくり</p> <p>地の利を生かした第1次産業の雇用を、市でバックアップする方策があってもよいのでは。</p> <p>交流人口（観光客）が増加すれば、館山市で職種の多数を占める「サービス業」の雇用拡大もされるはず。</p> <p>若者の就業安定（地域産業の新しい展開）</p>